

は じ め に

平成 13 年度の当研究所の業績がまとまりましたので、お届け致します。

この年度を振り返りますと、相前後して二つの大事件が起きました。一つは我が国の食糧行政を揺るがす厚生労働省による狂牛病本邦初例の発表（平成 13 年 9 月 10 日）、もう一つは世界の政治経済を揺るがす米国同時多発テロ事件（9 月 11 日）です。両事件とも地方衛生研究所に対する影響も多大でありました。前者では 10 月から生後 30 カ月以上のすべての牛の異常プリオン検査実施に発展し、後者では炭疽菌粉末によるバイオテロの影響で模倣犯罪事件のいわゆる白い粉検査が必要になりました。幸か不幸か札幌市には屠場がなくプリオン検査は免れましたが、炭疽菌検査には当所も大いに悩まされました。

札幌市では、全市の環境マネジメントシステムの構築と運用による国際規格 ISO14001 の取得（平成 13 年 11 月 22 日認証登録）という大事業がありました。衛生研究所は独立した庁舎で試験検査・調査研究業務を行っていることから、省資源・省エネルギー、廃棄物の削減等に加え、特に適切な施設運用・試薬管理による環境汚染危機管理の徹底を重点目標として取り組みました。保健福祉局の一部として予備審査・本審査の対象施設となりましたが、全職員一丸となって対応し無事クリアすることができました。しかし、この認証取得は単なる出発点にすぎず、今後は見直しと改善を繰り返す継続的運用が必要で、緊張感の持続が重要と肝に銘じているところです。

当所の情報システムは平成 10 年 1 月所独自にスタートしましたが、平成 13 年 5 月に市のシステムであるイントラネットに接続されました。これによりその維持管理が容易となり、本庁・各区部局との情報交換が飛躍的に円滑に行なえるようになりました。

当所が関係する市の新しい事業として、平成 13 年 5 月から糞便カラーカードを用いた胆道閉鎖症マススクリーニングが開始されました。また、昨年度末に完成した超微量化学物質検査室で 6 月からダイオキシン類検査が開始され、予定した環境モニター検体の測定が順調に行われました。

6 回目を迎えた都市型水質汚濁防止検査技術に関する JICA 研修は、本年度も中南米、中近東、アフリカから 6 名の研修生を迎え、平成 13 年 5 月 21 日から 7 週間行われました。このコースのフォローアップのため、11 月 26 日～12 月 8 日 JICA 調査団の団長として南米に行く機会がありました。訪問したチリで 2 名、ポリヴィアで 3 名の当該国研修終了者全員に会って話を聞くことができ、このコースが開発途上国の環境問題に関わる人材の育成に寄与していることを実感しました。また、昨年度から新たな形でスタートした新生児マススクリーニングに関する JICA 研修は 11 月 5 日から 7 週間行われました。アジア、中南米、アフリカ、中近東からの研修生 8 名は今回も無事研修を終え、クリスマス直前に帰国しました。

このような一年を思い出す中、年報 29 号が完成致しました。どうぞ高覧の上、ご忌憚のない意見を賜れば幸いです。また、当衛生研究所の運営に関し、今後とも、ご指導ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

平成 14(2002)年 11 月

札幌市衛生研究所
藤田晃三